２０１８年度入学式祝辞　　２０１８年４月１日

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。また、ご参集の保護者の皆様にも、心からお祝い申し上げます。市邨学園名古屋経済大学は、本日、学部に６７６名、大学院に６２名の入学者を迎えることができました。心から皆さんのご入学を歓迎いたします。春の光が輝き、桜吹雪が美しい、この良き日に、犬山市長の山田拓郎さま、犬山商工会議所会頭の日比野良太郎様はじめ、多くのご来賓の方々のご臨席を得て、ここに入学式を挙行できることを大変うれしく思います。

新入生の皆さんは、希望に胸ふくらませ、また、新しい環境の下で心地よい緊張感を抱きながら、ここに集まっていることと思います。是非、この緊張感を４年間あるいは大学院の方は３年間または２年間の間忘れないようにして、学習や研究に励んでいただきたいと思います。大学院に入学した皆さんは、すでに目的がはっきりしていると思われますので、その目的に向かって全力で研究をしていただきたいと思います。

ここからは、おもに学部生にお話をしたいと思います。多くの大学において、学長は、入学式における祝辞の中で新入生に向かって、「今日からは高校時代と違って、諸君を大人として扱うので、責任感を持って行動をするように」と話しかけるでしょう。しかし、私はあえて申し上げますが、名古屋経済大学では、新１年生を大人としては扱わず、４年間をかけて立派な大人に育てていくための、第一歩と位置付けたいと思います。新入生の皆さんはまだ、大人としての発展途上にあり、人として育つべきことがたくさんあると考えています。人としての常識を持ち、社会で尊敬される人物に育つように、名古屋経済大学では、少人数のクラス制をとり、日常生活の送り方も含めて教育していくつもりでありますので、覚悟のほどをよろしくお願いいたします。また、４年後の就職を念頭に置き、一年次から基礎力養成の講義を行います。皆さんには、明日、基礎力テストを受けていただきます。そしてＡＢＣにグループ分けをします。あえて申し上げますが、Ｃ評価を受けた人はチャンスだと喜んでください。高校まで、不得意で、真剣に向き合ってこなかった、数学などの基礎知識を学び直していただきます。数学と言っても難しい微分、積分ではなく、公務員試験や就職試験のために必要最小限の基礎的知識を身に着けるためのものです。われわれは、皆さんを受け入れた以上、立派な社会人として社会に送り出す覚悟の表れだと思って、基礎力養成の授業にはついてきてください。また、社会で働くことのイメージを早い段階で持ってもらうために、本学では、２年生、３年生の間に就業体験、いわゆるインターンシップに全員に行っていただきます。このようにして、社会に出る準備をしていただきます。

ところで、現代は、科学技術の急速な発展により、われわれを取り巻く環境は急激に変化し、予測がつきにくい時代となっています。たとえば、現在、人出不足が問題となっている車の運転手は、自動運転が可能となれば必要なくなるはずです。しかも、自動運転技術の完成は間近だと言われています。さらに、ＡＩの進化により、多くの職業を人間に代

わりロボットが行うようになると言われています。このように、皆さんが、卒業し社会に出る時に、その社会がどのように変化しているかを正確に予測することは、非常に難しくなっています。

しかし、グローバル化がさらに進展することと、アジアがますます世界経済の中心になることは間違いありません。この根拠についてここでは詳しくお話しできませんが、この予測の下で、名古屋経済大学は「グローカル人材の養成」を教育目標に掲げてきました。ローカルとグローバルを組み合わせたこの言葉は、多くの大学の教育目標とされていますが、本学ほど、体系的にかつ本格的この目標に取り組んでいる大学はないと思っています。

名古屋経済大学は、犬山にある唯一の大学として地元に愛され、期待されていると自負しています。このことは、本日の入学式に、犬山市長、犬山商工会議所会頭をはじめ、あとからご紹介させていただきます地元の高校の校長先生方が出席してくださっていることからもお分かりだと思います。この犬山は、国宝犬山城を擁し、博物館明治村、野外民族博物館リトルワールド、京都大学霊長類研究所などの研究者を擁する研究組織が多数集積した学術都市です。本学では、犬山学研究センターを設置し、これらの研究組織と連携をはかるとともに、犬山を大学のキャンパスと位置付けた「体験型学習」を１年生全員に提供しています。たとえば、「犬山の観光戦略を考える」と言うテーマのもとに、犬山市への観光客を増加させるためにはどのような施策が有効かを考える、などです。高校までの学びは、正解があることを前提に、その正解を覚えることが中心であったかと思いますが、社会に出て解決をしなければならない問題の多くは、一つの正解があるわけではありません。目の前にある地元の具体的問題の解決策を考えることは、今後皆さんが社会に出て活躍するうえで重要だと思われます。とくに、先ほど言った予測不可能な現代にあっては、既存の常識にとらわれず、柔軟に対応する能力が問われると思われるからです。このように、地元に教材を求め、その問題解決に取り組むという、ローカルに問題を考える姿勢はグローバル時代にこそ、ますます重要になっていると考えられます。付け加えますが、地域でボランティア活動などを積極的にしていただくために地域連携センターも用意しております。

ここで少し余談になりますが、４月の７日、８日（今度の土曜、日曜）は春の犬山祭りです。ユネスコ無形文化遺産に登録された山車（やま）が１３台、街中を練り歩きます。そのすべての山車に設置されたからくりは日本一ですし、その技術は、たとえば、トヨタの自動織機に応用されるなど、愛知のモノづくりのみなもとでもあります。学生の皆さんはもちろん、地方からおいでの保護者の方々も是非、見てお帰りなることをお勧めいたします。

次に申し上げたいことは、現代社会は、急速にグローバル化しているということです。たとえば、われわれの日常生活を支えている品々の生産地を見れば、日常生活が世界の諸国との分業によって成り立っていることが分かるでしょう。さらに、少子高齢化を迎える日本においては、製造業のみならず、コンビニなどの小売業、メガバンクなどの金融業、

学習塾などの教育産業などのサービス産業が、縮小する日本市場を当てにせず、世界、特にアジア諸国に進出しています。皆さんが卒業し、企業に勤める時には、直接的、間接的に海外とかかわっていない企業はないと断言できるでしょう。おそらく、アジアの主要都市は日帰り出張圏となっていると思います。したがって、われわれは、みなさんがグローバルに、とりわけアジアで違和感なく活躍できる人材に育っていただきたいと思っています。名古屋経済大学は、日本経済のさらなるグローバル化を見越して、４年前からキャンパスのグローバル化を目指して、留学生を積極的に受け入れてきました。今年も、本学は１２の国と地域から、１４７名の留学生を受け入れることができました。留学生を積極的に受け入れる方針を立てたのは、大学という教育産業も海外市場を対象とするべきだという経営上の戦略もありますが、なによりも、日本人学生が、グローバルに活躍できる人材に育ってほしいという思いがあるからです。そこで、皆さんにお願いをしたいのですが、留学生も日本人学生も大いに交流を深めていただきたいということです。キャンパスにいながら国際交流ができるという恵まれた環境を大いに生かしてください。留学生は、分からないことがあったら躊躇することなく、まわりの日本人学生に質問してください。これは日本人学生のためにもなるのですから躊躇する必要はありません。また、日本人学生は是非、留学生と積極的に交流をし、自分の日本についての知識をためし、また、自分が常識と思っていることが外国人の感覚とどのように異なるかを実感してください。さらに、本学の国際交流室は、留学生向けに、浴衣の着付け教室とか、相撲部屋見学とか、さまざまな日本文化を理解するための企画を実施します。これらには、日本人学生も是非積極的に参加してください。国際社会で活躍している日本人の多くが「真のグローバル人は英語がうまく話せる人ではなく、自分の国のことを外国人にきちんと説明できる人」だと言います。日本人が、グローバル人材となるためには日本文化をよく理解することが必要だということです。

留学生をたくさん迎え入れるようになって、キャンパスには目に見えて変化が起こっています。日本人学生の留学希望が増えてきました。本学では、ベトナム人留学生の実家にホームステイするとか、中国の協定校への交換留学をするとか、カナダの大学へ留学するなど、留学の機会を拡大しつつあります。皆さんも是非、在学中に留学を経験し、グローバル人材に育っていただきたいと思います。

まとまらない話をしましたが、皆さんが充実した学生生活を送られるように祈念し、また、本学はそのための機会を必ず提供することをお約束し、私の祝辞といたします。

本日は、ご入学おめでとうございました。